

レース名	日付	クラス	場所	コース	展開	想定馬場	ポイント
プリリアントカップ	2019/4/9	SIII	大井	1800m	ミドルペース	良	総合力

枠	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	父	父系統	母父	母父系統	能力	騎手	適性	展開	総合評価	期待値	印	結果
1	1	サンドブラチナ	牡6	55	石崎駿	カジノドライブ	ナスルーラ系	ステイゴールド	サンデー系	D	C	B	D	C	C		
	2	キャプテンキング	牡5	58	坂井	ファスリエフ	ノーザン系	ブライアンズタイム	ロベルト系	B	C	B	B	B	B	▲	
2	3	サブノクロヒョウ	牡6	57	笹川	ローズズインメイ	ヘイロー系	カコイシーズ	アリダー系	C	B	C	B	C	C		
	4	ウマノジョー	牡6	57	高松	ウイングアロー	ノーザン系	エンドスウィープ	ミスプロ系	C	C	D	D	D	D		
3	5	モズライジン	牡7	57	服部	クロフネ	ノーザン系	ウォーニング	ミスプロ系	C	B	C	C	C	C		
	6	ヤマノファイト	牡4	58	本橋	エスポワールシチー	ノーザン系	フォーティナイター	ミスプロ系	B	B	B	B	B	B	△2	
4	7	ハセノパイロ	牡4	57	矢野	パイロ	ナスルーラ系	ティンバーカントリー	ミスプロ系	C	B	B	C	C	C		
	8	ヒガシウィルウィン	牡5	58	森	サウスヴィグラス	ミスプロ系	ブライアンズタイム	ロベルト系	A	A	B	B	A	B	○	
5	9	クリスタルシルバー	牡4	58	的場文	サムライハート	サンデー系	アジュディケーティング	ノーザン系	B	C	B	B	B	B	△3	
	10	サウンドトゥルー	セ9	58	御神本	フレンチデピュティ	ノーザン系	フジキセキ	サンデー系	A	A	B	B	A	B	◎	
6	11	ハッピーズプリント	牡8	57	吉原	アツミラーレ	サンデー系	Dayjur	ノーザン系	C	A	B	C	B	C		
	12	ムサシキングオー	牡10	57	和田	キングヘイロー	ノーザン系	ラストタイクーン	ノーザン系	D	C	C	B	C	C		
7	13	シュテルングランツ	牡8	58	岡部	ステイゴールド	サンデー系	Two Punch	ミスプロ系	D	B	C	B	C	C		
	14	コティニャック	牡7	55	町田	ハーツクライ	サンデー系	アフリート	ミスプロ系	D	C	D	D	D	D		
8	15	ディアデルレイ	牡8	57	本田	キングカメハメハ	ミスプロ系	サンデーサイレンス	サンデー系	C	B	C	B	C	C		
	16	タービランス	牡6	58	赤岡	パイロ	ナスルーラ系	Theatrical	ノーザン系	B	A	B	B	B	B	△1	

隊列図	見解	ラップタイム
シユテ ディア タービ ヒガシ ハセノ サウン ハッピ コティ サンド	<p>昨年から重賞に格上げされたプリリアントカップ。今年から距離を2000m→1800mに変更して再スタート。昨年も重賞に相応しいメンバーがそろっていたが、今年はサウンドトゥルーを筆頭にヒガシウィルウィン、ハッピーズプリント、キャプテンキングなど、G1・S1勝ち馬が7頭もいる豪華な面々。次開催に行われる大井記念、さらにその先にある帝王賞に向けて目の離せない一戦になった。レースを作るのはシュテルングランツ。直後にキャプテンキング、タービランスの実力馬が収まり、ヒガシウィルウィンも前を射程圏に入れつつ追走。1番人気に推されそうなサウンドトゥルーも向上面からじわっと位置を押し上げ、直線入り口では先団まで追い上げているだろう。最後は大井外回りの1800mらしいガチンコ勝負になりそうだ。それでは予想にいきましょう。</p> <p>本命は<b>サウンドトゥルー</b>の地力を信頼する。すでに9歳だが、いまだに衰え知らずの馬。2走前の金盃は辛勝と言えは辛勝だが、差しづらい馬場の中、力でねじ伏せる勝利。着差以上に評価していい内容だった。3走前の東京大賞典では上り2位の脚を繰り出して4着に健闘。大井中距離ならG1でも上位争いできる力をまだ維持している。(以下省略)</p>	
ミドルペース		

枠	馬番	馬名	印	評価	結果	回顧
1	1	サンドブラチナ		前走プリリアントカップトライアルを大外一気で豪快に差し切り。派手な勝ちっぷりだったが、相手関係に恵まれた面もあっただろう。重賞ではさすがに荷が重いのでは。		
	2	キャプテンキング	▲	距離がハマったとも見ることはできるが、ここに来て再び充実してきた可能性も。元々、大井1800mで行われた羽田盃でヒガシウィルウィンを下して勝利している馬。1400mがベストかもしれないが、1800mも守備範囲と捉えていだろう。		
2	3	サブノクロヒョウ		昨年の大井記念2着（当時、3着がヒガシウィルウィン）は評価できるものの、その後の成績がいまひとつ。今回は長期休養明けで、メンバーもそろった。厳しい戦いを強いられるだろう。		
	4	ウマノジョー		近走は得意の長距離戦でも結果を残せず。走りが明らかに淡泊になっており、ピークを過ぎたと判断していいだろう。苦戦必至。		
3	5	モズライジン		前走金盃では伸びづらい外からしぶとく脚を使って5着に健闘。叩き2走目でパフォーマンスを上げてきたが、今回は2400m→1800mの距離短縮が明らかにマイナス。この距離で一級線相手では分が悪い。		
	6	ヤマノファイト	△2	前走金盃で4着に敗れたが、最後の失速ぶりを見ると、距離がやや長かったか。門別時代には1200mで走っており、エスポワールシチー×フォーティナイナーの血統を考えると、これくらいの距離の方が合っている。2走前の報知オールスターカップではタービランスに競い勝ち。能力的に見劣ることはな		
4	7	ハセノパイロ		2走前の報知グランプリカップでは勝ち馬タービランスから0.4秒差の3着。古馬になっても3歳時から成長があまり感じられず、やや頭打ちになってきた印象。大幅な上積みがない限り、このメンバーで好走するのは難しいのでは。		
	8	ヒガシウィルウィン	○	今年初戦の柏の葉オープンでは2着に敗れたが、勝ち馬ベンテンコソウはおそらくダートグレード級で相手も素直に強かった。直線で追われると一完歩づつ差を詰め、ゴール板があと100m長ければ、楽々と差し切っていただろう。地方馬同士のレースでは【7.8.1.0】とほぼ連対を外していない。		
5	9	クリスタルシルバー	△3	今年初戦のフジノウェーブ記念で3着とまずまずの走り。距離はもっとあったほうが良さそうな印象を受けたので、叩き2走目、距離延長でパフォーマンスを上げてきてもいい。世代でもトップクラスの能力を秘めているのは間違いなく、立ち回りひとつで上位争いできるだろう。		
	10	サウンドトゥルー	◎	すでに9歳だが、いまだに衰え知らずの馬。2走前の金盃は辛勝と言えは辛勝だが、差しづらい馬場の中、力でねじ伏せる勝利。着差以上に評価していい内容だった。3走前の東京大賞典では上り2位の脚を繰り出して4着に健闘。大井中距離ならG1でも上位争いできる力をまだ維持している。		
6	11	ハッピープリント		再転入初戦の隅田川オープンを制したものの、相手に恵まれた面は否めない。昨年の道営での走りからピークを過ぎたのは明らか。相手強化で苦戦するのは。		
	12	ムサシキングオー		近走は重賞で大敗続き。ピークを過ぎたのは明らかで、ここは参加するだけだろう。		
7	13	シュテルングランツ		近走で3着以内に好走したのは、2400m以上の長距離戦。1800mは本質的に短い。このメンバーならハナを奪えるかもしれないが、直後に格上のタービランス、キャプテンキングらが追走。残り目は難しいだろう。		
	14	コティニヤック		転入初戦のプリリアントカップトライアルで13着に大敗。今回は相手関係が格段に強くなっており、苦戦必至だろう。		
8	15	ディアデルレイ		前走報知グランプリカップでは逃げて2着に粘り込んだが、勝ち馬タービランスに完敗だった。今回は相手関係がさらに強化。徹底先行型のシュテルングランツがいるので、前走のようにハナを奪うのも難しいだろう。		
	16	タービランス	△1	昨年プリリアントカップ2着馬。その後は北海道に移籍し、今年から再び南関東に籍を移したが、報知オールスターカップ2着、報知グランプリカップ1着と従来の力を維持している。1800mは【5.0.0.1】と相性がいい条件。外目の2、3番手を確保できれば、堅実に走ってくるのではないかと。		